

第1回新庁舎整備基本計画検討分科会での主な意見と対応について

令和7年(2025年)9月8日

No.	項目	意見要旨	今後の対応
1	基本計画骨子	基本計画の骨子については、基本的な骨格はできているため概ね了承。 「まちづくりの核としてまちなかに新しい庁舎を再構成する」という点など、熊本市ならではの特徴については、今後、具体的な検討が必要である。	基本計画の記載項目において、「熊本市ならでは」と言える部分をしっかりと示すことができるように、検討を進める。
2	コンセプト	各機能の整備方針などの各論を検討する前に、まずはどのような新庁舎を目指すのか、コンセプトを定める必要がある。 コンセプトは、各検討事項の議論の最中にも、立ち戻ることができる存在である。 市民と市役所の関係性をベースとしながら、時代の変化に対応できるという思想を盛り込み、それらが統合された言葉を探したい。	基本構想で掲げる3つの視点を踏まえてコンセプトを設定する。 特に、「まちづくりの核」としての視点については、本庁舎と中央区役所を分けて整備することや、それぞれの建設地の特性を踏まえた検討を行う。
3	市民意見聴取	新庁舎整備について、若い世代を含め熊本市全域の市民に関心を持ってもらうべき。 市民ワークショップは非常に良い雰囲気が進められ、多くの意見が出た。これらの意見を基本計画へどのように反映したのか、フィードバックする方法も検討してほしい。	若い世代の方にも多数ご参加いただいたオープンハウスについては、今後も各区のイベント等の機会を捉えて継続して実施する。 市民ワークショップでの意見をどのように基本計画へ反映させたかについては、素案の段階で市民説明会とは別にワークショップ参加者向けの報告会の開催等を検討する。
4	災害対応機能	熊本地震の経験を踏まえた防災拠点施設という、熊本ならではの視点や、熊本地震以降の社会情勢の変化を踏まえた内容とするべき。	あらゆる災害に対応できる防災拠点施設とは、どのようなものを目指すのか、熊本市ならではの視点や可変性のある内容について、検討を進める。

No.	項目	意見要旨	今後の対応
5	機能分担（分棟）	<p>本庁舎と区役所を分けて整備することは、熊本市の基本計画における特徴であるため、コンセプトにも明記する必要がある。</p> <p>にぎわいの観点など、分けて整備する理由を市民に分かりやすく説明すべき。</p>	<p>にぎわいの波及、景観への配慮など、本庁舎と中央区役所を分けて整備する理由について、あらためて明記する。</p> <p>また、区役所を単独で整備することにより中央区独自のまちづくりに取り組みやすくなることが期待できるため、その点も踏まえて中央区役所のコンセプトを設定する。</p>
6	市民利用スペース	<p>「市民利用」というが、市民はともに政策立案していく主体。</p> <p>基本構想に掲げる「まちづくりの核」として、どのようなものを目指すのかを示すべき。</p> <p>また、インクルーシブデザインの視点も重要。</p> <p>市庁舎と市民との関係性が描かれておらず、市庁舎+αの機能であり、市民が使ってよい、というものにとどまっていると感じる。</p> <p>市と市民の関係性、そしてその空間の在り方をコンセプトでしっかり定義する必要がある。</p>	<p>No.1 コンセプトの設定と同様に、基本構想で掲げる3つの視点や、本庁舎と中央区役所を分けて整備すること、それぞれの建設地の特性を踏まえて、「まちづくりの核」としての役割を検討する。</p>
7	駐車場・駐輪場	<p>駐車場の整備方針は、災害時のことも踏まえつつ、周辺施設の活用や将来的な利用者数の変化なども見込んで検討してほしい。</p> <p>駐輪場の整備方針については、シェアサイクルの活用なども含み、総合的に判断すべき。</p>	<p>関連施策との整合、周辺施設の活用、交通解析の結果などを踏まえて、新庁舎の駐車場の整備方針を整理する。併せて、災害時の運用についても整理する。</p> <p>駐輪場についても、関連施策や周辺施設の活用、シェアサイクルの活用などを踏まえて、整備方針を整理する。</p>